

<b>授業科目名</b>	教職表現力演習 (2100302)		
<b>時間割名</b>	教職表現力演習 (52110)		
<b>時間割担当</b>	山田明広		
<b>実施期</b>	通年	<b>単位数</b>	1 選択
<b>曜日・時限</b>	金・2		

### 授業の目標・概要

現行の学習指導要領では、児童生徒の思考力、判断力、表現力等を育む観点から、各教科等において言語活動を充実することが強く求められている。言語活動とは、話す、聞く、書く、読むの4つの活動をいう。何よりも教師自身がその力を確実に身に付けていなくてはならない。本授業では、1年次で履修した教職表現力演習を受け、これら4つの言語能力のうち「書く力」である「文章表現力」を身に付けること、とりわけ、論文を書くために必要な基礎的な力を身に付けることを特に重視する。この力は、3年次以降の学びに直結するものである。「書く力」に主眼をおきつつ、総合的な言語能力を伸ばすことを目標とする。

### 学習の到達目標

本授業では大学生・社会人として求められる日本語の基礎的な力の習得、及び専門的な研究や、幼・小・中・高等学校の教師として必要な文章表現に関わる知識と確実な運用能力の獲得を到達目標とし、あわせて、受講生自身の小論文の完成を目指す。

### 授業方法・形式

テキストに従い、項目ごとに講義と実践演習を行う。また小テストを毎回行い、現代日本語に関する知識の蓄積と日本語の運用能力の向上を図る。

### 授業計画

<前期>

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 話し言葉と書き言葉 その1
- 第3回 話し言葉と書き言葉 その2
- 第4回 書き言葉の技能 文の組み立て その1
- 第5回 書き言葉の技能 文の組み立て その2
- 第6回 書き言葉の技能 呼応する言葉 その1
- 第7回 書き言葉の技能 呼応する言葉 その2
- 第8回 書き言葉の技能 わかりやすさ 文のつなぎ方 その1
- 第9回 書き言葉の技能 わかりやすさ 文のつなぎ方 その2
- 第10回 書き言葉の技能 わかりやすさ 意味の限定 その1
- 第11回 書き言葉の技能 わかりやすさ 意味の限定 その2
- 第12回 書き言葉の技能 わかりやすさ 言葉の順序 その1
- 第13回 書き言葉の技能 わかりやすさ 言葉の順序 その2
- 第14回 書き言葉の技能 応用 要旨をとらえる
- 第15回 総合復習

<後期>

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 書き言葉の技能の応用 要約 その1
- 第3回 書き言葉の技能の応用 要約 その2
- 第4回 書き言葉の技能発展編 要約 その3
- 第5回 書き言葉の技能発展編 レポートの書き方
- 第6回 書き言葉の技能発展編 論証とは その1
- 第7回 書き言葉の技能発展編 論証とは その2
- 第8回 書き言葉の技能発展編 論証とは その3
- 第9回 書き言葉の技能発展編 論証とは その4
- 第10回 総合応用 小論文作成 その1
- 第11回 総合応用 小論文作成 その2
- 第12回 総合応用 実習を申し込む
- 第13回 総合応用 インタビュー取材をする
- 第14回 総合応用 就職活動をする
- 第15回 総合復習

### 成績評価の基準

課題提出(20%) 小テスト(20%) テスト及び小論文(60%)

### 準備学習・復習及び授

授業時に指示する次の項目について、実践問題を解いておくこと。  
 国語辞典・漢和辞典を必ず持参すること(電子辞書は使用してもよいが、携帯電話・スマホは使用禁止)  
 日常的に新聞記事やコラム、また日本語について論じられている文章(新書等)を心がけて読むこと。読むべき書籍については、授業中に指示する。

### 履修上のアドバイス及

文章は書かない限り上達しない。特に文章作成については、ポイントを意識しながら文章構成を考えて作成すれば、多少の時間は要するが、必ずできるようになるものなのであきらめず取り組んでいくこと。  
授業時は、飲食、及び携帯電話・スマホの使用禁止。

### 教材・教科書

テキスト：名古屋大学日本語表現研究会『書き込み式 日本語表現法』（三弥井書店）

### 参考書

授業時に適宜紹介する。